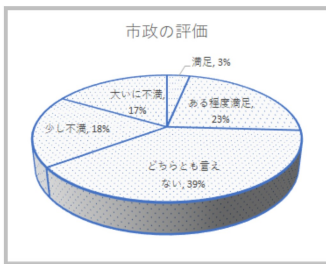


日本共産党名古屋市議団 市政アンケート

# 中間集計報告②

## 河村市政の評価「不満」が「満足」を上回る

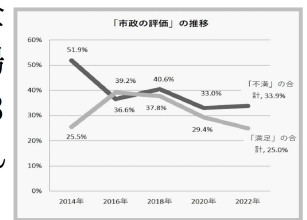


現在の名古屋市政について評価は、「(満足・不満足の)どちらとも言えない」が全体の4割近くを占めました。

「満足」と答えた人の合計は25.1%。一方、「不満」と答えた人の合計は33.9%で、「不満」が「満足」を上回っています。「満足」派は2018年の市政アンケート以来3回連続で減少し、その差は拡大。また、年齢が高くなるほど「不満」が多くなる傾向です。

回答理由については、「介護保険料、国民健康

保険料が高い」(60代)、「駅前の開発とか天守閣木造とか、栄の開発とか、そういうところにお金使うのではなくて、子ども達の給食費をただにするとか、図書館の建て替えとか、敬老パスの回数制限なくしてほしい」(60代)、「戦争により滅失した後に復元された今の名古屋城を今更、木造建築するのは反対。河村市長の個人的な思想は自由であるが、市長という全体の奉仕者としての立場を堅持してもらいたい」(30代)などの声が寄せられています。



## 市政に望むこと 物価高騰下 負担軽減求める声上位に

43項目の施策から「市政に望むこと」を5つ以内で選択する設問です。トップは「議員報酬1450万円の引き下げ」で回答者の41.8%が選択しました。世代別でも、10代を除くすべての世代で1位。今回新たに追加した選択肢「政務活動費支出内容のインターネット公開」も、20～60代の各世代で10位以内に入りました。

10代が市政に一番望んでいるのは「給付型奨学金制度の拡大」(40.6%)。20～40代でも各世代で10位以内でした。

全体の第2位は「子どもの貧困や児童虐待への対策」で35.7%。10代(8位)を除くすべての世代で5位以内に入りました。

全体の第3位は「国民健康保険料の値下げ」で34.2%。20代～70代の各世代で5位以内。特に20代は2位35.4%、30代は3位30.1%と、

若い世代で要望が高いのが特徴です。

全体4位は「医療体制の充実」33.3%。すべての世代で10位以内に入りました。

全体5位は「介護保険料・利用料の軽減」で30.8%。60代以上で要望が高い項目です。

今回、子育て世代を中心に大幅に順位を上げたのが「学校給食の無償化」です。全体でも6位28.8%でした。(10代前回24位→今回7位、20代8位→3位、30代4位→2位、40代8位→4位、50代21位→10位)。

「敬老パスの利用回数制限の撤廃」は交付対象の60～80代の各世代でそれぞれ20%を超えました。

大型開発関連では「名古屋城天守閣の木造化推進」は全体37位(7.1%)。「名古屋駅周辺開発」も全体41位(4.6%)といずれも下位でした。